Finance NEWS

令和５年11月１日

メインバンク以外の金融機関の活用

「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」に転換しつつある一方で令和５年９月時点においての新型コロナウイルス関連倒産は全国で累計 6,761 件。負債総額１億円未満の小規模倒産が 4,091 件(帝国データバンク新型コロナウイルス関連倒産動向調査より参照)は前年の件数を大きく上回るペースで推移しております。業界別に業況の回復状況に差があり、依然資金繰りに悩まれている事業者様、また逆に業況の回復によって運転資金等の資金需要を抱えている事業者様も多いと思います。メインバンクが支援してくれるから大丈夫だと思っていませんか？今回はメインバンク以外の金融機関との付き合い方についてお話しさせていただきます。

【メインバンクとは】

そもそも『メインバンクとは』どの様にお考えでしょうか？
一般的には主に「最も融資残高の大きな取引金融機関」「預金残高が最も多い金融機関」「取引歴の最も長い金融機関」等考え方は様々です。このうちどれをもってメインバンクかを判断をするかについて、明確な定義はありません。しかし近年では主に「融資残高が一番多い銀行」の意味で使われていることが多いのも事実です。

事業者様から見れば最も融資してくれる、頼れる銀行がメインバンク。銀行にしてみれば、その事業者様に最も融資し、他のどの金融機関よりも利息収入をあげているのがメインバンク。ということになります。今回は「メインバンク」を、「最も融資金額の大きい金融機関」と定義してお話しさせていただきます。

【メインバンク以外の金融機関の必要性】

一つの金融機関としっかり取引をしていれば問題ないのではと思われている経営者様もいらっしゃると思います。しかし一行だけとの取引では、融資を断られた場合どうされますか？融資を受けることが出来なければもう後がありません。だからこそ複数金融機関と融資取引を継続しておくことで、資金調達の間口を広げておくことが重要となります。またメインバンクから融資を受けられなければ、新規の金融機関に申し込めればよい、ということにはなりません。金融機関は、今まで取引のない会社より、今まで融資を実行して返済実績のある会社のほうが、ずっと融資をしやすいです。普通新たな融資を受けたい時、メインバンクからの融資を第一に考えると思います。金融機関から見ると、新規の事業者様から融資の申込みがあった場合、既存の金融機関で新たな融資を受けられないから融資相談に来たのではないかと身構えると思います。また業績が悪化、社会からの信用を低下させる不祥事、粉飾決算等、様々なケースを想定し、新規融資の申込みに対しては慎重になります。このように考えると、メインバンクだけではなく、複数の金融機関で融資を受けておき、返済実績をそれぞれの金融機関で作っておくことで、１つの金融機関から融資を受けられない時でも別の金融機関という選択肢を確保しておくことができます。

【最後に】

どの業界でもあるように、金融業界でも、金融機関の間での競争があります。融資はどこの金融機関で受けても商品の内容は「お金」です。その中で、他の金融機関と差別化が出来るのは「金利」です。金融機関が融資をしたい企業であれば、金融機関の間で競争させることで、金利が低くなる可能性があります。またメインバンクだけではなく他の金融機関とも融資取引の実績を作ることで、良い条件（借入条件）を引き出すために交渉をすることが出来ます。また民間金融機関だけでなく政策金融公庫とも融資実績を作っておくことで、もし民間金融機関からの貸し渋りが起きた時に、相談に乗ってくれる可能性もあります。そして最後に「事業者様が本当に困った時に助けるのがメインバンク」であるべきと考えますが、困った時に助けないメインバンクがあるのも事実です。こういった際のリスクの回避と良い融資条件を引き出すという側面からも複数の金融機関と良い関係性を築いていただきたいと思います。